



毒物の定性・定量検査を行うためのガスクロマトグラフ質量分析装置 (GC-MS/MS)。充実した研究環境が精度の高い死因究明を可能にしている

「生きている患者さんを診るのが臨床医。亡くなった患者さんを診るのが法医」。そう話す久保先生は、「解剖や検査、分析など、さまざまな角度からアプローチして体の中で何が起ったのかを明らかにし、事件や事故に見舞われた方の死因を究明することが私たちの使命です」と法医の社会的役割を説明します。

日本初となる カフェイン中毒死を特定

先生の主な研究領域は、病理学、中毒学、遺伝学。病理学では解剖した脳を顕微鏡で観察して生前の認知症の診断を行う研究、中毒学では危険ドラッグなどの分析・研究、遺伝学では死因となる遺伝子変異の研究に取り組んでいます。中でも中毒学は福岡大学法医学教室の伝統といえ

る分野。「本学には緻密で高度な薬物分析ができる日本有数の専門機器がそろっており、代々の法医学の先生方が中毒研究に注力されてきた歴史があります。蓄積された膨大な研究データを引き継ぎ、新しい発見・成果につなげ、社会にフィードバックすること。それが今を受け継ぐ私たちの責任であると自負しています」。

その言葉どおり、2015年には九州で起きた原因不明死の死因が、急性カフェイン中毒であることを特定。これは日本初の報告例となり、新聞やテレビなど、国内外の各メディアで報道され、世界的な注目を集めました。記者会見で先生は、眠



多種多様な薬品や備品を使用し、数日掛かりで多くの可能性の中から患者の死因を特定する



解剖の際に採取した細胞は、専門スタッフが顕微鏡・写真撮影装置を使って組織検査を行う

ることができるのは法医だけであると熱く語る恩師の信念や人柄にも強く引かれ、人と違う道に進みたいという思いが一気に開花したのを覚えています」と当時を振り返る先生。続けて「筋肉の硬直から死亡推定時刻を特定する。胃の内容物から死の直前の行動や生活習慣を推察する。体の全てをくまなく診て死因を明らかにする法医は、診療領域を限定することが許されず、非常に広範囲な知識が必要になります。幅広い素養や知見が求められるからこそ、挑戦する価値があると感じました」と法医を目指したころから持ち続ける志を、熱を込めて語ります。

死因究明制度改革の 実現に力を尽くす

長年、日本法医学会の理事も務める久保先生。今後の展望や取り組みについて尋ねると、こう問題提起します。「時代の変化によって、法医の役割が多様化しています。日本は高齢化で死亡者数が増加。それに伴い、一人暮らしの高齢者が孤独死するケースも増加の一途をたどっています。事件や事故による死因不明でなくとも法医が診ることになります。が、法医は全国で200人ほどしかいません。つまり、大学だけに解剖を頼らないよう新しい受け皿の創出



研究室を訪ねて

教授陣の卓越した研究を知り、
個性的な人柄にも触れる――
「知」との貴重な出会いのページ

謎の死が増え続ける現代社会 徹底的な死因の究明が「法医」の使命

医学部 医学科（法医学）

久保 真一 教授

- 研究テーマ
- 頭部外傷の法医神経病理学的研究
 - 認知症の法医病理学的研究
 - 薬毒物中毒の法医病理学的研究



採取した血液や尿に含まれる成分を分析し、死因を特定するケースは少なくない



や、新しい人材の育成が急務で、そのためには死因究明制度改革に向けた法整備が不可欠なのです。各機関と協力して広く社会に制度改革の必要性を説くなど、実現に向けて取り組みことは私のこれからの重要な務めであると考えています」。

先生モノがたり

数々のメディアに出演し、
法医学の認知度向上に寄与

日本法医学会の庶務担当理事を務めていた2008年、NHKから番組出演の依頼があり、「クロースアップ現代」にゲスト解説員として出演。それ以降、先生は数々のメディア関係の仕事にも携わります。また、2007年5月に公開された映画「眉山」（監督：犬童一心）には、実際に解剖の教員としてエキストラ出演。2009年には法医学ゼミに所属する医学生たちの奮闘を描いたドラマ『ヴォイス』の制作に協力しました。「死因究明制度改革や法医学の発展に貢献するため、その意義や必要性を少しでも世間に知ってもらう一助になればと考え、オファーがあれば可能な限り受けるようにしています」と先生は話します。



「眉山」びざん（2枚組）
DVD 発売中 ¥4,800＋税
発売元：フジテレビジョン・東宝 販売元：東宝